

# 令和6年度八代市医師会事業報告

令和6年度は、診療報酬等改定・第8次保健医療計画・第9期介護保険事業計画・医師の働き方改革などが行われた。

診療報酬等改定では、6年に1度の医療・介護・障害福祉サービスの同時トリプル改定となった。今回の改定で制度間の調整が行われ重要且つ大規模な改定となり、令和7年度は地域医療構想の最終年度にあたることから、地域医療構想を踏まえた内容も盛り込まれた。

第8次保健医療計画では、熊本県保健医療計画を踏まえて、八代圏域の課題や取り組みの方向性として、「生活習慣病の発症予防と重症予防」「医療機能の適切な分化と連携」「外来医療に係る医療提供体制の確保」「糖尿病」「在宅医療」「救急医療」「災害医療」「へき地医療」「新興感染症発生・まん延時における医療」が記載された。

第9期介護保険事業計画では、地域包括ケアシステムの深化・推進、団塊の世代が75歳以上となる令和7年、更には団塊ジュニアが65歳になる令和22年を見据えて、中長期的な人口動態や医療と介護へのニーズ見込みと取り組みが記載された。

医師の働き方改革では、医師に対する時間外労働の上限規制が適用され、診療従事勤務（A水準）には、年960時間の上限規制、地域医療暫定特例水準（B水準）及び集中的技術向上水準（C水準）の医療機関においては特例的に1,860時間の上限規制が適用された。

八代市医師会では、八代市医師会立病院において、これまで医療療養病床100床で稼働してきたが、地域包括ケア病床100床を新設し、医療療養病床を90床に変更した新たな病床稼働が始まった。地域包括ケア病床は急性期治療を経過した方で、その後の経過観察が必要な方、在宅復帰に不安がある方、在宅復帰に向けて積極的なリハビリが必要な方などに安心して復帰支援に向けた医療やリハビリを提供する病床であり、八代市医師会立病院は在宅療養支援病院として往診や訪問診療を実施していることから、在宅や介護施設で一時的な軽度から中程度の入院医療やリハビリが必要となった場合の「ときどき入院、ほぼ在宅」や患者家族を支援するためのレスパイト入院などを支援する病床でもあり、今回の病床転換を機に地域医療連携室内の八代地域在宅医療南部サポートセンターを活用した、かかりつけ医への後方支援体制を更に整備した。

次に八代看護学校と新しい八代市医師会館建設についてである。新会館建設については、3つの基本的な建設方針（規模及び建設予定地・建設時期・資金計画）は、総会承認を得ているが、近年の入学者減少が大きな歯止めの原因となっている。この様な状況下、八代看護学校が当番校として、第1回目の城南地区医師会立准看護高等専修学校（院）連絡会議が開催された。主な内容として、各学校の現状や課題などを共有する教務主任会議での活発な検討結果の報告があり、新規高校卒や幅広い社会人卒に加えて高いハードルはあるものの、外国人入学についても検討段階にきていることや各学校のカリキュラムを統一したりリモート授業も実験的に行われている。城南地区医師会長副会長連絡協議会においても、厳しい運営状況を共通の認識として捉え、「熊本県看護師等養成所運営費補助金の増額について」「外国人の准看護師課程への入学について」、熊本県医師会から熊本県並びに日本医師会への働きかけを行う旨の決議がなされている。また、第124回九州医師会連合会総会でも「看護師、准看護師の継続的な養成」が決議されており、関連の取組みを活かした入学希望者を呼び込むための魅力ある看護学校の構築に努めなければならない。

最後に、八代市医師会事業部門の令和6年度収支状況の懸念がある。各事業部門においては、当該年度の事業目標に対する達成度の評価や未達成における課題などの検証を行い、次年度への取組みの糧にしなければならない。また、各事業部門それぞれが、八代市医師会において、どの様な立ち位置で使命を持って役割りを果たしていかなければならないのかをもう一度見直さなければならない時期と考える。

令和6年度、八代市医師会の大きな流れは以上であるが、以下は各事業部門の主たる事業について報告する。

## 《医師会事務局》

1) 公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母子保健・産業保健・福祉医療） 2) 医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業 3) 会員相互扶助事業の業務がある。地域保健における予防接種事業での過誤防止対策や母子保健事業の推進、福祉医療における地域包括ケアシステムの構築、学校保健では少子化対策を視野に入れた小中学校の校医の編成など、それぞれの関係機関との連携を取りながらの情報提供や柔軟で的確な対応に努めた。

## 《看護学校》

地域医療の充実と安定を構築するためには、医療・介護・福祉・保健分野での専門性を活かした看護師及び准看護師養成が不可欠であり、看護師国家試験並びに准看護師検定試験においては、常に県下トップクラスの合格率で看護教育の質の高さを堅持している。

第1回目となる城南地区医師会立准看護高等専修学校（院）会議を当番校として開催し、教務主任を中心とした情報共有等検討部会では多岐にわたる意見交換が重ねられ、教育環境整備の一環としたリモート授業が実験的に実施された。

また、入学呼び込み対策としてオープンスクールや八看マルシェの開催や行政主催のボランティア活動などに参加しての魅力ある八代看護学校のアピールに努めた。

## 《健診検査センター》

医師会立共同利用施設として、地域・職域での各種健診やがん検診などの多岐にわたる業務を担い、疾病の予防と早期発見に努め、かかりつけ医等への受診勧奨を行い、また、八代地域唯一のラボとしての質の高い精度管理を基本に緊急及び24時間対応の検体検査体制も充実し、健診業務並びに検査業務においてあらゆるニーズに迅速に的確に対応した。

なお、健診部門並びに検査部門における関連機器とシステムの大規模更新を控えて、会員をはじめ、関係機関や地域住民のニーズを幅広く取り入れた更新検討が行われている。

## 《訪問看護ステーション》

地域包括ケアシステムの構築に向けた訪問看護ステーションの重要性と医療・保健・福祉・介護など、多職種のリーダー的存在としての体制整備が着実に進み、医療の立場からは特に医療依存度の高い症例に重点的に取り組んだ。

また、居宅介護支援事業所では、関係機関との緊密な連携と情報共有を行いながら、業務展開の拡大に取り組んだ。

## 《医師会立病院》

地域包括ケア病床（100床）と医療療養病床（90床）での新たな病床稼働が開始された。改めて、それぞれの病床の特色を確認し、医師会立病院として会員をはじめ、患者やその家族に安心して療養できる環境を作り上げることが求められる。

在宅医療については、地域医療連携室内の八代地域在宅医療南部サポートセンターを活用し、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所との情報共有を行いながら、それぞれの専門性を活かした取り組みの中で在宅医療を行っている会員の後方支援体制をこれまで以上に充実させなければならない。

また、人事交流について、看護部より八代看護学校への人事異動が行われた。これは八代市医師会にとって初めての取組みであり、今後の人事交流の大きな一歩となった。

## 《夜間急患センター》

八代市の委託を受け、本会会員の尽力で地域住民の夜間急患センター利用が着実に定着している。特に小児医療については、小児科医会並びに内科協力医師による小児医療の充実が八代市医師会活動の大きな柱の1つである。しかしながら、小児科診療における小児科医会の先生方の負担が増加傾向にあり、小児科医会との検討や関係機関と連携しつつ、負担軽減のための新たな小児科診療の診療体制の整備を行わなければならない。